

第3学年国語科

「経験したことや想像したことを詩で表そう ～『心が動いたことを詩で表そう』～」

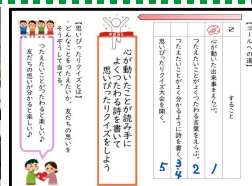
学習指導者 小出 早織

単元の概要

教師自作の詩を読み、どんな思いが込められているか当てるクイズを行った子供たちは、思いが通じ合うことの嬉しさや楽しさを感じ、自分たちも詩を創作して友達と思いを伝え合いたいという意欲を高め、「心が動いたことが読み手によく伝わるように詩を書いて、思いぴったりクイズをしよう」という目標を設定した。その後、目標達成に向けて伝えたい出来事を決め、それを伝えるためにその時の様子や気持ちが伝わる言葉を増やし、より自分の伝えたいことが伝わる言葉を選んで詩を創作した。

課題設定

本時の初めに、学習計画や前時の板書を基に学習を振り返り、目標達成に向けてまだできていないことの中から本時取り組むべきことを確認し、課題を設定した。

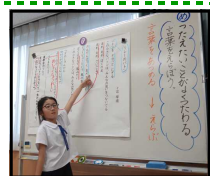


今回は伝えたい出来事を選ぶことができたから、今日はそれがよく伝わる言葉を集めたいな。

伝えたいことがよく伝わる言葉を選ぼう

解決の見通し

教師自作の詩と教師の伝えたい思いが書かれたカードを照らし合わせ、詩の中で使われている言葉に着目した。その際、五感を使って「何が（見えたか、聞こえたかなど）」「どんな」「どう思った」で、出来事の様子やその時の気持ちを連想していくとよいことを捉えた。その後、前時の板書を基に、課題解決の流れと成功体験を想起することで、本時も同じように課題解決に取り組んでいく見通しをもつことができた。



解決

「何が」「どんな」「どう思った」の項目で色分けしたワークシートを使って、五感を視点に言葉を増やし、整理していった。友達との交流では、「何が」「どんな」「どう思った」についてインタビューし合いながら、自分では気付かなかった様子や気持ちを表す言葉を増やしていく姿が見られた。集めた言葉の中から、伝えたいことにぴったり合う言葉を吟味する際には、教師のモデルで選び方を確認した後、伝えたいことと関連する言葉を線で繋ぎながら、表したい内容になるよう言葉を選ぶことができた。

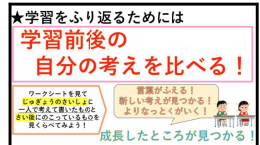


ドッジボールをした時、ボール以外に何が見えた？

ボールが当たりそうで友達が焦っている表情が見えた。新しい言葉が見つかったから増やしておこう。

振り返り

「学習を振り返る時はどうすればよかったかな」と問いかけ、「**学習前後の自分の考えを比べる**」という方法を想起し、本時の学習の成果を捉えていった。解決場面で、友達との交流を通して新しく増えた言葉やより納得のいった言葉には印を入れておいたことで、学習前後の自分の考えを比べやすくなり本時の成果を捉えている姿が見られた。また、「友達のおかげで」「友達のために」の項目でも振り返ったことで、協働のよさや自己の貢献を感じる姿も見られた。



考察 (○：成果、▲：課題)

- 単元の目標に向けて、「何が」「どんな」「どう思った」と五感で分けたワークシートを使うことで、自分の伝えたい出来事の様子やその時の気持ちを表す言葉を整理しながら増やしていった。
- ▲ 友達と交流する際は、似たような出来事で詩を書きたい子供たちがグループになりインタビューし合うことで、より具体的な言葉を集めることができたのではないか。

